



# MDP

Sagan Tosu

2023



明治田田生命 J1 LEAGUE

2023明治田田生命J1リーグ第8節

@駅前不動産スタジアム

MATCHDAY PROGRAM

サガン鳥栖オフィシャルマッチデープログラム

2023 Season | VOL.07

04.15 [SAT]  
15:00 KICK OFF  
vs 柏レイソル



©1996 .H.K.REYSOL

MF Yuki HORIZOME

44  
自分を  
変える

信じてきたこれまでの

「自分で自分に問い続けられるところは厳しくやっていかないとシーズン通しては試合に出られない」。今季の開幕前に堀米勇輝はそう内省していた。高い技術をベースに武器である左足からのラストパスやシュート。テクニシャンのイメージが強かった堀米だったが30歳を前にハードワークや戦うこと。華麗さとは対義の泥臭さを意識するようになった。加入一年目の昨年、鳥栖では「華麗さと泥臭さ」の両立を見せ、存在感を放った。しかし、本人に満足する様子はなかった。「ある程度の手応えとまだまだ甘いところ」と感じました。もっとやらないといけないし、シーズン通して戦う、ちょっとした自分のポジショニングの甘さ。そういう部分がクセとして出てしまっている。これまでの自分から大きく変わることを「進化」ととらえているだけに変りきれていない部分が堀米の心の中で引っかかっていた。

だからこそ、今季はより「変わること」にチャレンジしていく。「去年の反省で言うとちょっと、キレイにやり過ぎた」。守備ではアグレッシブにボールを追い、球際でも激しくぶつかった。しかし、ボールを持った際には「華麗さ」の枠からはみ出せなかった。「欲を出してもいい場面で欲を出さなかった。判断としてはそれが正解だけど、そこでもう一個、リスクを冒しても踏み込んでやっていてもいい。ときにはキレイにやり過ぎないことや正しい判断をし過ぎないことも大事だと思います」。自身が得意とする攻撃の領域ではこれまでの自分が邪魔をする部分もあった。相手に脅威を与えるために必要なのは野生動物のようなどう猛さであり、堀米が求めているのはまさにそこだろう。「よりゴールもアシストも増やしていきたい。最後の質の部分を自分はそこで違を出していかないと生き残っていけない」。堀米は野性味を意識し、牙を研ぎ澄ます。これまでの自分の領域を超えたとき、サガン鳥栖の攻めはもう一つ、上のステージへと到達するはずだ。

matchday program presents

BPLUST Presents



TAPSTAY

スペシャルマッチ

HOTEL

